

耐震補強工事に10月から着手、緩和ケア・リハビリを拡充 「移転・縮小などとんでもない」——東松戸病院の懇談会

松戸市議会では、市立病院の千駄堀移転・建替えのための補正予算が可決されました。これに伴い「東松戸病院の今後は？」—東部地区の住民の関心はあらたに高まっています。10月3日、松戸市立福祉医療センター（東松戸病院・梨香苑）の存続を求める会は、東松戸病院の関係者との懇談会（出席住民20余人、うつの史行市議も出席）を開き、日頃の疑問に答えて頂きました。

懇談会では、次のような質問が出され、それに答えてもらいました

- 市立病院を退院した患者が、東松戸病院に優先的に転院できるシステムになっているか。
- 優先にはなっていないが、市立病院から転院する患者は多い。同病院とは、医師との連携・情報がとりやすい。
- 今後、東松戸病院のめざす方向は？。緩和ケア・リハビリ機能の充実させる方向はあるのか。
- リハビリは、スタッフが12人から25人体制になり、10月から土曜日も実施。訓練時間もふやせるようになった。また今年の4月から緩和ケアの専門の医師が入り、将来は20床の病棟をオープンしたいと考えている。現在も緩和ケアの患者に診療を実施している。

精力的に医師探し——眼科・整形外科

- 高齢者の利用の多い眼科・整形外科の診療日が減っている。もっと充実できないか。
- 医師がなかなかみつからない。現在も精力的に探している。その中で11月から眼科の診療日を週1日から3日にふやすことができた。
- 東松戸病院で活発に行われているロコモ検診や健康塾等の予防ケアの取り組み状況をどうなっているのか。民間病院に比べて、宣伝が足りないのか、地域では余り知られていないようだ。
- 病気の予防のための自己啓発を支援する活動を強めている。ロコモ検診は医師のほかリハビリの技師・栄養士が行なっている。また『健康塾』は月1回、市民講座は年2回開いており、大変好評。



これらは「広報まつど」に必ず載っている。支所にも掲示している。また松戸市の『パートナー講座（出前）』でも院長をはじめとして講師をつとめている。グループや町会でどうぞご利用を。

災害の後は慢性期病院の必要も高まる

その他、耐震補強工事として、96本の柱を補強する工事を今年10月から来年3月まで行うことが東松戸病院から報告されました。また3・11東北大震災の教訓として「災害発生直後の1週間ぐらいは、急性期医療機関が重要な役目を果たすが、その後は慢性期の患者を受け入れる病院が必要なことを痛感」とうつの市議が発言。「その意味からも、敷地の広さからしてもふさわしい、慢性期医療にも力を入れている東松戸病院はどうしても必要だ」と述べました。

「今日の懇談のなかで、現場のみなさんの努力、採算をあげるための奮闘を聞き、東松戸病院・梨香苑の移転、縮小などは考えられない」と懇談会からの帰途、ある出席者は語りました。



平成24年10月 松戸市立福祉医療センターの存続を求める会
代表 松岡美多子 連絡先 勝田ヨシ子 TEL 3 9 1 - 5 2 8 1